

大学等名 名桜大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">名桜大学教養教育専門委員会</span>	
（責任者名） <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">佐久本功達</span>	（役職名） <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">名桜大学教養教育専門委員会 委員長</span>

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムは、共通コア科目(全学対象)の科目で構成されている。</p> <p>(1)「数理・データサイエンス・AI入門」                      (2)「アカデミックスキル特別講義(データ活用のためのアプリ開発)」                      (3)「データ処理入門」 ※人間健康学部健康情報学科の専門発展科目</p> <p>履修・修得状況については、(1)を修了し、かつ(2)または(3)を履修及び修了した学生は令和6(2024)年度においては17名であった。合わせて、令和7(2025)年度より、全学対象とした共通コア科目(4)「アカデミックスキル特別講義(データ処理入門)」を集中講義で開講している。これらの講義について令和7(2025)年度履修者は、(2)国際学部2名、人間健康学部9名、(4)国際学部0名、人間健康学部2名、国際学群5名である。この18名のうちの9名は人間健康学部の学生であり、数理・データサイエンス・AI入門も修了しているため、該当の学生は修了要件を満たすことが見込める。また、令和7(2025)年度後期においては、健康情報学科の学生が(3)を履修できるため、例年、学科学生数の約半数が受講してくる科目であることを踏まえると、毎年40名程度の受講履修が見込められる。その人数分がプログラム修了条件を満たしていくことになる。</p>
学修成果	<p>名桜大学データサイエンス教育プログラムで指定した2科目を履修した学生は、現時点(2025年5月)で健康情報学科の17名であり、授業評価も4.1(5点満点)と高い評価を得ている。「アカデミックスキル特別講義(データ活用のためのアプリ開発)」は、授業評価アンケートの実施は行っていないが、毎年虎ノ門ヒルズで開催されるClariss Engage Japanの中で、担当教員が学生が開発したアプリの紹介を行った。今後は、修了者が自身の課題やレポート、PBL、卒業研究の中で、習得した技術をどのように活用するか評価し、該当科目の自己点検に役立ていきたい。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>2024年度開講の「データ処理入門」に対する学生からの授業評価アンケート(5件法による調査で回答率は71%)は、教員評価の平均が4.1、満足度も4.1と高い水準であった。また、学生の授業理解は質問項目の中でも一番高く、4.3となっていることから、理解度の高い授業が展開できたことが伺える。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>「データ処理入門」の講義では、データ処理スキルの習得達成のためにExcelを活用した講義展開となっている。他にも統計処理を行うツールとして有名なR言語を使った学習を提供している。学生の授業評価アンケートからも「Excelに関して詳しい内容が学べてよかった」「R言語を使った学習がとてもためになった」「データ処理を行う上での基本的な技術を身につけることができた」とのコメントがあった。また、「アカデミックスキル特別講義(データ活用のためのアプリ開発)」に関しては、授業改善の目的のために最終講義後に学生からのヒヤリングを行っているが、文系学生でもデータ活用の重要性が学べるPBLであるというコメントをもらっており、共に推奨度の高い授業であることが伺える。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>現在、本学は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に認定されていることから、リテラシーレベルの知識に関しては、履修生が修得できる体制である。今後は、これまでPBLを中心に開講してきた「アカデミックスキル特別講義(データ活用のためのアプリ開発)」と並行し、令和7(2025)年度から全学対象として設置した「アカデミックスキル特別講義(データ処理入門)」も追加した。後者は、プロジェクトベース学習(PBL)を授業設計に加味することで、データ利活用のスキル習得を視野に入れたカリキュラム変更を行う。これにより、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」(令和7年度申請予定)の要件にあった内容を網羅するとともに、高いデータサイエンススキルを備えた学生を社会に送り出すことができると考えている。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>指定した2科目を修了した学生はまだ在学中であるため、進路状況等の調査は現段階において把握できない。今後は、本学のキャリア支援課と連携し、応用基礎レベルを修了した学生の進路先や活躍状況が把握できるよう検証していく。また、将来的には修了者が就職した企業や進学した教育・研究機関などがあればそこへ調査依頼を実施し、企業評価を把握する仕組みを構築するように検討する。</p> <p>応用基礎レベルでのPBL導入計画は、実務に近い経験を提供するため産業界としても今後の関心が高い取り組みである。実データに基づく分析、可視化、発表そしてアプリ開発の一連のプロセスを経験させることは、近年注目される社会課題解決能力の育成に直結する。また、現状のExcel/Rに加え、データ取得・前処理の重要性を伝え、Python等の汎用プログラミング言語やSQL、AIの基礎にも触れる機会があれば、卒業生の活躍の幅が一層広がると期待する。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>これまで開講してきた「アカデミックスキル特別講義(データ活用のためのアプリ開発)」に加え、令和7(2025)年度からはPBL形式の「アカデミックスキル特別講義(データ処理入門)」を全学向けに提供する。前者の講義では、自身が日ごろ抱える課題に関するデータを収集し、それに基づいたアプリ開発を行うPBLである。後者の講義の前半では、データ処理の基礎を座学形式で提供し、後半ではPBLを実施する。PBLの具体的な内容については、実際に自分で収集したデータやWebで広く公開されているオープンデータを活用し、「データ分析」「データの可視化」「プレゼンテーション」を実施することで、学生が講義の前半で学んだことをデータと向き合いながら深い学びに繋げていく。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」では、該当する科目の基本的な概念の習得が目的であるが、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」においては、実際にデータを扱うスキル習得が求められる。そのため、令和7(2025)年度からは健康情報学科の専門発展科目である「データ処理入門」の内容を見直し、プロジェクトベース学習(PBL)形式の講義を展開する。同時に、リテラシーレベル以上のスキルを求める学生にも対応できるように、全学向けの科目として「アカデミックスキル特別講義(データ処理入門)」を新たに設置することで、幅広い分野でデータサイエンスの素養を活用できる人材育成に繋げる。</p>